

平成22年度 事業計画書

自 平成22年4月1日
至 平成23年3月31日

東京都中央区築地3丁目11番6号
(財)日本モーターサイクルスポーツ協会 (MFJ)

平成22年度事業方針

国内の経済状況、二輪販売台数の推移はじめ、モーターサイクルスポーツを取り巻く環境は改善の兆しが無く、本年度も厳しい状況が予測されます。

ライセンス人口や参加者、観客も長期に亘り減少が続いており、MFJの事業活動や組織、競技の運営体制も環境に合わせた変革が必要であると考えます。

平成22年を21世紀の最初の10年から次の10年に向けたスタートの年と位置付け、10年先を見据えた中長期の方針を策定し、若者に「夢」を与え、愛好者に「生きがい」を持って取り組んで貰えるような「スポーツ」としての位置付けを確固たるものにするべく活動して参ります。

平成22年度事業においては、さらなる事業の効率化に取り組むとともに、将来に向けた施策の検討も併せて進めて行きたいと思えます。

◆ 平成22年度の見込み

平成21年10月から開始した2010年ライセンス会員の登録状況から下記の見込みとした。

ライセンス会員数	16,800名	(前年比89.8%)	前回17800
エンジョイ会員数	5,200名	(前年比89.1%)	前回5500
競技会数	550大会	(前年比90.3%)	前回580

◆ 平成22年度のスポーツ事業への取り組み

- ・ 社会的認知の向上（メディア対策・主要競技会の観客動員向上への告知広報等）。
- ・ 年少者／女性の普及対策
- ・ 安全・環境整備への取り組み
- ・ 参加者／主催者に対する諸手続きや規定の見直しや利便性向上の施策
- ・ アジアとの連携

◆ 平成22年度管理部門における取り組み

- ・ 新会員管理システムを8月1日より稼働する。（当初計画の4月より遅延）
- ・ スポーツ傷害基金の移行準備（平成23年4月1日よりスポーツ安全保険適用）
- ・ 新公益法人移行準備（一般財団か公益財団かの選択と公益法人会計への対応）

以上

1. 競技会

1) ロードレース

(1) 世界選手権／国際競技会／特別競技会

開催日	格式	大会名	会場	MFJ共催	文科省後援
4月23日～25日	世界選手権	MotoGP日本グランプリ	ツインリンクもてぎ	○	○
5月21日～23日	国際選手権	FIMアジア選手権ロードレース日本大会	オートポリス	○	○
6月5日～6日	国際競技会	鈴鹿300km	鈴鹿サーキット		
7月23日～25日	世界耐久選手権	ココロ鈴鹿8時間耐久レース	鈴鹿サーキット	○	○
8月28日～29日	UAM国別対抗戦	アジア国別対抗ロードレース日本大会	スポーツランドSUGO	○	○

(2) 全日本選手権 (全7戦) 全大会MFJと共催／文部科学省後援

日程		会場	JSBの予選・決勝方法		
			予選	決勝	J-GP2混走
4月4日	第1戦	筑波	計時予選	1レース	○
4月18日	第2戦	鈴鹿2&4	ノックアウト方式	1レース	○
5月23日	第3戦	オートポリス	ノックアウト方式	1レース	○
8月29日	第4戦	SUGO	ノックアウト方式	1レース	○
9月26日	第5戦	岡山国際	ノックアウト方式	1レース	
10月17日	第6戦	ツインリンクもてぎ	ノックアウト方式	1レース	○
10月31日	第7戦	鈴鹿 MFJ-GP	ノックアウト方式	2レース	○

- ①鈴鹿2&4はF-Nとの併催。MFJ-GPはフルコース予定
- ②GP125は「J-GP3」と名称変更、4st化促進の為2st125の重量を77kgとし、ラム圧を禁止するなど4stとの性能調整を行う。2stの参加は2011年までとした。
- ③J-GP3にユースクラスを設け、次世代のライダーを育成する。
- ④4サイクル600の新クラス「J-GP2」を設定、当面JSBとの混走。
- ⑤アジアとの連携を目的に第3戦（アジア選手権併催）第4戦（アジア国別対抗併催）を開催する。（アジア選手権600クラスの改造規則は2011年から国内ST600と同じとなる）

	2010	2011	2012	2013	2014
JSB1000	◆FIMのSB規則/EWC規則ハモナイスの方向性を確認。トップチームの減少が懸念される。				
J-GP2	◆2010はJSBとの混走可でスタート、台数が確保出来れば単独開催の可能性				
ST600	◆参加型チームが主体であり、アジアとの連携を見据えたクラスとしての役割で継続する。				
J-GP3	◆2011年までは2st125が参加。2012年から4stに1本化される。				
GP-MONO	◆2011年まではGP-3の4st化に備えてエントリー数を確保する役割を担う。				

(3) 地方選手権において市販車4ストーク250車両の入門者クラスを促進。

※名称は「ST250F」 4ストーク 2気筒以下 145cc～250cc

- ・鈴鹿サーキット（地方選手権として4戦）・ツインリンクもてぎ（承認競技として開催）

2) モトクロス

(1) 全日本選手権は全 10 戦開催。

	日程	会場		日程	会場
第 1 戦	4 月 4 日	近畿	第 6 戦	7 月 4 日	北海道
第 2 戦	4 月 18 日	関東	第 7 戦	7 月 18 日	東北(藤沢)
第 3 戦	5 月 16 日	中国	第 8 戦	9 月 12 日	近畿 ※
第 4 戦	5 月 30 日	東北(SUGO)※	第 9 戦	10 月 10 日	中国
第 5 戦	6 月 13 日	九州	第 10 戦	10 月 24 日	MFJ-GP(SUGO)

※第 4 戦/第 8 戦はシュートアウト試験開催/最終戦MFJ-GPはMFJ共催/文科省後援

①全日本選手権の参加者と主催者のコスト削減を目的に従来 3 日制を 1.5 日制とした。

②2011 年より、IA-1/IA-2 の第 1 ヒートの上位各 15 名による「IAシュートアウト」を行い、トップライダーが一同に会するレースで観客にアピールする施策を行う。2010 年は試験的にシュートアウト方式を 2 回実施する。

(2) 年少者の普及振興

チャイルドクロスを全戦で併催、最終戦は全国選抜大会とする。

(3) モトクロス全国大会

ジュニア・国内 A/B 級の全国選抜大会を東北地区 (SUGO) にて 8 月 1 日に開催。

3) トライアル

(1) 世界選手権トライアル

6 月 5 日/6 日 世界選手権日本グランプリ MFJ 共催・文科省後援

(2) 全日本選手権

	日程	会場		日程	会場
第 1 戦	3 月 14 日	関東	第 5 戦	9 月 5 日	中国
第 2 戦	4 月 11 日	九州	第 6 戦	10 月 17 日	中部
第 3 戦	5 月 23 日	近畿	第 7 戦	10 月 31 日	東北
第 4 戦	8 月 1 日	北海道			

①中国大会では、新競技方式の試験的实施を継続。

②関東・中部大会では、スーパークラスのスペシャルステージが設けられる。

(3) トライアルグランチャンピオン大会 11 月 14 日 兵庫県・猪名川サーキット

4) その他の競技

(1) スノーモビル全日本選手権 (全 5 戦)

※開催は 2010 年 1 月～3 月

	日程	会場		日程	会場
第 1 戦	1 月 31 日	新潟(苗場)	第 4 戦	2 月 21 日	北海道(士別)
第 2 戦	2 月 7 日	長野	第 5 戦	2 月 28 日	北海道(美瑛)
第 3 戦	2 月 14 日	北海道(和寒)			

(2) スーパーモタード (moto1 オールスターズ全8戦)

	日程	会場		日程	会場
第1戦	4月11日	美浜(愛知)	第5戦	8月1日	TSゆた(広島)
第2戦	5月9日	琵琶湖SP(滋賀)	第6戦	8月22日	SUGO(宮城)
第3戦	6月6日	伊那(長野)	第7戦	9月19日	HSR九州
第4戦	6月27日	エビス(福島)	第8戦	10月31日	もてぎ(栃木)

(3) エンデューロ全日本選手権

	日程	会場
第1戦	3月20～21日	SUGO
第2戦	5月15～16日	山都(熊本)
第3戦	10月2～3日	日高(北海道)

※全日本ドッグレースは休止

5) 全日本選手権ランキング表彰式

全日本選手権各種目のランキング上位3名を表彰する式典を下記にて開催する。

開催日：平成22年12月26日(日) 場所：東京・大手町・日経ホール

2. 普及事業

1) 年少者/女性/アジア対策

(1) MF Jロードレースアカデミー in MOTEGI

主催：(財)日本モーターサイクルスポーツ協会

会場：栃木県・ツインリンクもてぎ。 期間：2010年3月～11月

受講者：9名(年齢12歳～18歳) 受講料 30万円

(2) MF Jトライアルアカデミー

主催：(財)日本モーターサイクルスポーツ協会

会場：茨城県・真壁トライアルロード 期間：2010年4月～11月 受講料 11万円

受講者：15名

年少者(9歳～18歳)=4名 女性(年齢問わず)=9名 ファミリー参加=2名

(3) レディースロードレース。

女性ロードレースを年間3回・講習会3回(模擬レース含む)を開催する。

2010年度開催スケジュール・会場:筑波サーキット			
	第1回	第2回	第3回
講習会・走行会	3月5日(金)	5月28日(金)	9月24日(金)
レース開催日	3月14日(日)	6月5日(土)	10月2日(土)

(4) アジア国別対抗ロードレースの開催

開催日：2010年8月28日（土）～29日（日）

主催：(財) 日本モーターサイクルスポーツ協会

会場：宮城県・スポーツランドSUGO

対象：UAM所属国協会代表選手

3. 広報対策

会員、メディア・販売店・一般への情報提供を内容に応じて下記媒体を活用し効率的に発信する。機関誌は年間4回の発行とする。

- 1) 機関誌ライディングの発行（年間4回+規則書）
- 2) プレスリリース（年間12回発行）
- 3) MFJホームページ(機関誌発行回数減に伴う補完的役割を果たすよう内容見直し)
- 4) プロモーション施策(全日本ロードレース中心)
 - ①全日本ロードレース/モトクロス全戦の放映（CS放送）を促進。
 - ②専用ホームページ「superbike.jp」による情報発信
 - ③メディア向けのシリーズ概要資料作成・配布
 - ④東京モーターサイクルショー等への出展・広報
 - ⑤若手育成のユースカップ奨励賞設定

4. 安全・環境対策

- 1) 安全装備の研究と推奨（本年より脊椎パッド義務付け・胸部保護パッド推奨等）
- 2) アカデミー・レディスレースでのエアバッグベスト使用
- 3) 環境整備委員会にて事故再発防止を主眼とする事故調査
- 4) モータースポーツライフェビング機構（LSO）に加盟。講習会実施。（年間4回予定）
- 5) 全日本モトクロス・トライアルにおける簡易心電計の導入。
- 6) ロードレースにおけるサーキットアドバイザー制度の補助。（随時）
- 7) 公認コースの査察を必要に応じて実施
- 8) 観客安全対策の強化。（ネット・コースフェンス・立ち入り禁止表示等支援）
- 9) インストラクター養成事業(6月下旬東京にて開催)の継続ならびに、競技役員セミナー等で人材育成を行う。
- 10) ドーピングコントロールの実施

ロードレース・モトクロス・トライアルの全日本で年間各1回検査を実施する。

6. 地方組織について

- 1) 地域二輪車協会の協力を得て全日本選手権等主要イベントの集客向上を目指す。
- 2) MFJ ネットワークショップ加入の勧誘を行う。
- 3) 加盟団体会長・事務局長会議を定期的に開催する。

7. 国際対策

- 1) FIM総会（10月マカオ）のロードレース委員会、モトクロス委員会へ委員及び事務局員の派遣。
- 2) アジアモーターサイクルユニオン（UAM）総会への出席
- 3) FIM規則の翻訳
- 4) 世界選手権の運営に求められる主要競技役員資格認定の為、FIM競技役員セミナーを開催。（7月ロードレース／テクニカル）
- 5) 代表選手派遣
 - ・アジア国別対抗ロードレース等に日本代表チームを派遣する。〈日程未定〉
 - ・国別対抗世界選手権の代表チームの選抜と認定

8. その他の事業

- 1) 諸会議の開催
MFJのスポーツ事業を円滑に推進するために必要に応じて諸会議を開催する。
 - ・理事会／評議員会（6月／12月／3月）・加盟団体会長／事務局長会議・中央スポーツ委員会・技術委員会・専門委員会・部会
- 2) 会員管理システム
顧客管理・競技会管理・請求管理等事務円滑化の為ソフトウェアをリニューアル8月1日より稼働予定
- 3) スポーツ傷害基金
 - ・スポーツ傷害基金の年次計画の策定、管理・運営を行う。
 - ・外部保険（スポーツ安全保険）移行への準備作業を行う。
- 4) 50周年記念事業の準備
2011年に協会設立50周年を迎える為、記念事業の検討並びに準備作業を行う。

9. 補助金事業

下記3件の補助金が内定した。

- 1) (財) JKA「体育事業その他の公益の増進を目的とする事業に関する補助金」
 - ①平成23年度国内競技規則書 交付申請額：5,460,000円
交付額：5,460,000円
 - ②平成22年度MFJレディースロードレース 交付申請額：2,572,000円
交付額：2,572,000円
- 2) 独立行政法人日本スポーツ振興センター「スポーツ振興くじ助成事業」
 - ・平成22年度ドーピングコントロール 交付申請額：2,479,973円
交付額：2,231,000円

10. 公益法人制度改革への対応

- 1) 移行公益財団法人、一般財団法人の選択を今期中に行う。
- 2) 公益法人会計基準準拠の為、公益法人に精通した会計事務所とのコンサルティング契約を継続し、移行に向けた諸準備を行う。
- 3) スポーツ傷害基金をスポーツ安全保険に移行する為のライセンス発行期間、保険料の入出金処理等の整備・調整作業を行う。

以上